

Belgian Breeze

ベルギーの風と薫り



Violin

大津純子 (Junko Ohtsu)

東京芸術大学、米国ジュリアード音楽院卒業後、NYを拠点に演奏活動を開始。ジュリアード音楽院在学中に、ジュネス・ミュージカル・インターナショナルおよびカーネギー・ホール両者による招待にてニューヨーク・デビュー。セントルイス交響楽団、シモン・ボリバル・ヴェネズエラ国立オーケストラ他との協演、リサイタル・プログラム〈The Artistry of Junko Ohtsu〉のパブリックTVネットワークによる全米30都市以上への放映、また、米国でのラジオ放送出演も数多い。ロックフェラー三世財団より2年間に亘り特別グラント受賞。

国際交流基金派遣にてロシア、チェコ、オーストラリアなど、欧州、アジア、中南米諸国にて公演し、絶賛される。『マラゲーニャ』、『アメリカ』(1998年、「レコード芸術」誌「室内楽準推薦盤」に選出)、『Prelude to a Kiss』などCD5枚をリリース。近年は、執筆・講演などの分野にも活動の範囲を広げている。

2002年、自ら企画・プロデュースする室内楽シリーズ『Good Old Days ~アメリカの“素敵で時代”』を立ち上げ、日本のクラシック音楽シーンの盲点であった“知られざるアメリカ”にスポットを当てた意欲的な好企画として、大きな注目を集める。2004年、イラストレーター・和田誠、ジャズピアニスト・佐藤彦彦と共に、ジャンルを超えて音楽を楽しもうという意図のもと、〈Junko and the Night and the Music〉シリーズを開始。3人の異なるバックグラウンドを活かしたユニークな企画は大好評を得ている。

2005年より〈Junko's Heart to Heart concert〉シリーズも年2回展開中。

Piano

アンドレ・デ・グロート (André De Groot)



ベルギー音楽界を代表するピアニスト。チャイコフスキー、クィーン・エリザベス、ミュンヘンなどの栄誉ある各国際コンクールにおける輝かしい受賞歴を持ち、ヨーロッパの音楽シーンのみならず、アメリカやアフリカ、中東、アジアなどでも幅広い演奏活動を行っている。

ロンドンにてハリエット・コーエン国際音楽賞メダルを受賞。イーゴル・マルケヴィッチ、クリストフ・エッシェンバッハほか数多くの著名な指揮者と共演し、ピアノ協奏曲のレパートリーは50曲を超える。

ベートヴェン32曲のピアノ・ソナタをはじめ、ブラームスによるピアノ曲ほぼ全曲の演奏とレコーディング(Naxosより発売)を行っており、エーリッヒ・コルンゴルドによる3曲のピアノ・ソナタ、プーランク、フランソワなどのピアノ作品の録音、また室内楽の分野においては、ヴァイオリニスト、オーギュスタン・デュメイ、クラリネット奏者、ヴォルフガング・マイヤー、チェリスト、ヴィヴィアン・スパノーゲらとの共演によるCDも多数発売されている。

これまで米国・アリゾナ州立大学、インディアナ大学、広島・エリザベト音楽大学などで客員教授を務め、現在、ブリュッセル王立学院名誉教授。クィーン・エリザベス国際コンクールほか、各地の国際コンクールの審査員も務めている。

音楽評論家 濱田滋郎 (Jiro Hamada)

1935年生まれ。60年頃より翻訳、雑誌への寄稿、レコード解説などの仕事につく。78年より2004年まで、東京芸術大学、桐朋学園大学、東京外国語大学、立教大学、東京大学ほかで非常勤講師を務める。NHKFM放送のクラシックおよび民族音楽の番組にレギュラー出演、89年には教育テレビ「市民大学」講師を半年間務める。88、90の両年、キューバの「ハバナ国際ギター・コンクール&フェスティバル」に審査員、講演者として招かれる。

主要著書に「スペイン音楽のたのしみ」(音楽之友社)、「フラメンコの歴史」(晶文社)、「エル・folklor」(晶文社)のほか、訳書多数。

現在、日本フラメンコ協会会長(90年より)、スペイン音楽こだまの会主宰(85年より)。「レコード芸術」誌新譜月評(器楽部門)レギュラー執筆者。第3回「蘆原英了賞」受賞。

Guest



〈会場〉

HILLSIDE PLAZA

- 渋谷より東急東横線で各駅停車にて一駅「代官山駅」より徒歩3分
- 東急バス 71(渋谷駅発～洗足駅行)「代官山駅入口」より徒歩2分
- バス/東急トランセ(渋谷駅発)「ヒルサイドテラス」下車

※駐車場奥の丸い建物よりお入りください。

